

---

# 俺は男だ！女だけど...

瑞鶴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺は男だ！女だけど…

### 【Nコード】

N2949H

### 【作者名】

瑞鶴

### 【あらすじ】

近所の認知症の婆のせいで死んだ事にされ高校に入学したばかりの笹川明は姉が用意した入浴剤の仕業で女の子になってしまい笹川秋という女の子として生活することになったちゃったしかも高校生活では非現実的な事ばかり起こる…

1 死亡説って怖くね？（前書き）

6・30改

「痴呆」というのはあまりよろしくないという評価をいただいたので  
認知症に言い換えました、不快に思われた方々申し訳ございませ  
ん  
o  
r  
z

1 死亡説って怖くね？

「明君…」

「梓…」

俺は梓を押し倒しそして手を胸にあてた

「ふえ？明君…」

「どうした？」

「やさしくね」

「わかってるよ…」

…っという妄想なんだ

憧れの梓ちゃんの妄想ばかりしてる俺は高校生になってまだ1日しか

たつてない笹川明（ひさかみあき）、母は死亡、父親はアメリカに、姉と二人で住んでいる

姉もなかなかかわいい子だが…姉だから興味なし！！！！

「明ー 風呂沸いたよ、ぐふふふふ」

まで…最後のぐふふはなんだよ

「わかった」

俺は浴場へ行く

体を洗って風呂に入ろうとフタをあけつと…

「なんだこれ？」

これはこれは、ピンクです桃色ですそして沸騰してるように見える  
なにこれ？

入ってみた

「ふう…」

ジューボン！

なんか変な音がしましたね、実はそうなんです、今自分の体をみたら  
ちっちゃいけどおい　いがあつてち　ちんがなくてかわりにあわび  
みたいなのが…

つてなんじゃこりゃあ！！

ガチャツ！

素早くタオルを巻き姉に訊くんだ！

「姉ちゃん！　どついう事なんだよこれ！！！！」

「アハッ」





1 死亡説って怖くない？（後書き）

皆様方のご感想お待ちしております



## 2 堀田軍曹、祖国へ帰還スル

翌日、

「な…やめる！」

「ええ？ どうせブラジャーのつけ方もわからないくせにい？」

「変態馬鹿姉！」

「パンツ脱がすよ？」

「ごめんなさい…」

もういやだこんな生活！ まだちょっとしか経ってないけどもう嫌だ！

「とれあえず制服を来て俺は学校へ、

1 - 3 組 -

「えーっと 東京からきました笹川秋です！」

なんで東京かって？ 姉の設定でこうしろって書いてあったんだよ…

「っというわけで仲良くしましょうね皆さん」

ガタッ

やったあああ！！！！ 梓の隣だぜえ！！！！

・  
・  
・

今俺女だから思い切って好きだあとかいえねーけどな  
それは喋れるんだがどうかんがえてもおかしいだろうん

一週間後 -

中学3年間ずっと違うクラスだった梓と俺は仲良しになった  
やったあああああ！！！！ まあ…女だけど俺

ん？美術の先生がなんかしゃべってるな

「…というわけで明日は開校記念日で三連休、だから宿題として  
どっかで〴〵写生〴〵してそれを飾りましょう」

(しゃ…しゃせい！！！？)

「どした秋？」

「い！！！ なんでもないよ」

(そつだよな…普通に考えてそりゃあないよな)

(あーでも梓の顔にならしゃせ…いやなんでもない！)

そしてー！！！！

翌日・フィリピン、ルソン島

「っであずにゃん」

あずにゃんとはいつのまにか秋が付けたあだなである  
決してけい んとは関係なし

「なんでフィリピンまで来たの？」

「私は珍しいものが描きたいの」

「珍しいもの？」

「ほら！ 東南アジアには今も姿を変えず生息しているめずらしい  
生物がいるってイメージない？」

「ないない」

いたとしてもしらねーよそんなの  
そもそもなんでフィリピンなんだ？

「んもおあずにゃんだったら、こんな森林地帯、いても見つからない  
でしょ」

今更思ったが俺も女の子の演技上手だなあ、全然不振に思われてな  
いぜ

「いや！ 絶対いるよー！」

ここでわかった、梓って物好きな変人なんだなと  
だがそれがいい！！ いつかは告白する！！ 男として！！

ガサガサ！

「なにかいるよ秋！」

「なにかなあめずらしい動物かなあ！」

ササッ

「はっ！？」

「…」

カーキ色の上下を着ており星マークが入っている帽子に帽垂れがついてて

銃を装備していて…ってこれって…

「め…めずらしい」

「秋ちゃんみつけたよ！！！！！」

「ちょwwwこれってwww」

「日本人…わ、私は日本陸軍軍曹堀田三造でございます！！！！！」

「ここは激戦地であります！！！！ 即時退却を！！！」

「…」

翌日！！

新聞にはおおきくこんな記事が掲載された

「ルソン島にて旧日本兵発見！！ 帰国は明日！！！」

ちなみに秋達が帰ったのは2日後、日曜日だ

空港

「めずらしいもの描けたね」

「ああ…確かにめずらしいけど…失礼だろめずらしいって」

「本当にいたなんて!! 昔のまんま姿を変えずに…泣けてきた」

「あずにゃん、おちついて、とりあえず明日は学校だからかえろ」

「うん…」

「ところであの人は？ 日本兵」

「あそこ」

・  
・  
・

「帰って参りました…恥ずかしながら、生き永らえて帰って参りました…」

気持ちはわかる、あんたは誇り高き日本兵だからね

ってあいつ妙に若々しいな、戦後…64年だろ若すぎだろあいつ!  
! ! ! !

「ところで堀田さん、妙に若いですね」

そりゃあ、誰が見ても不思議だ

「私は…陸軍特殊歩兵部隊所属でありまして不老不死の手術をしました! ! !」

「へえーそれはすごいですね！」

いや関心するな：おかしいろだろなんだ陸軍特殊歩兵部隊ってそんな兵科あつたつけ？

つてか人を不老不死にできる技術あつたらそれを最初っから兵器に使えば勝てただろ！

それともう一つ、これなんてエロゲ？

そして月曜日！

「えーっと 美術科から宿題が出ていましたね、じゃあ提出しましよ…：というまえに

転校生を紹介したいと思います」

「転校生？」

「あれ秋、知らないの？ ほら昨日帰国した堀田軍曹、現代社会で生きるために

勉学に励むらしいよ」

「すぐに陸軍に入って今で言う中卒レベルだから、最低でも大卒になりたいらしく」

「あ、なるほど」

つても明らかに年上だろ？ 先輩とかいうレベルじゃねーぞ…！

ガララ…

「ど、どうも！昨日ルソン島より帰還した堀田三造であります！」

（め…滅茶苦茶緊張してるー）

こうして、梓のおかげで無事堀田軍曹は祖国日本へ帰還できた

（不可解だ…）

秋は一連の騒動が理解できなかった

だが秋は今後させなる出来事を経験する

それは時に常識的におかしいことだったりとてもえっちなことだったり…

続く

## 2 / 堀田軍曹、祖国へ帰還スル（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

梓「あきいー！質問質問！」

秋「なあーにーあずにゃん！」

梓「今回ののくらいパクったの？」

秋「知らないよぉ、でも私知ってる

元ネタは以下のとおりだよ」

あずにゃん、作中でもあるとおりけいおん

堀田軍曹帰還、横井伍長帰還

陸軍特殊歩兵部隊、誰彼

梓「横井伍長は実際にあつた話だね」

秋「俗に言う残留日本兵ね、今もいるって噂だよ」

梓「堀田さんみたいなの？」

秋「いや、流石に堀田軍曹みたいなのはいないよ」

「あんな非現実的な技術あるんだったら高齢化

なんてものないよ」

梓「ですよ、で今もいるの？」

秋「うーん、終戦時20歳の人も今や83、84歳だからね

「生きてる可能性が少ないし生きてても高齢で

動けないよ、いても土着化してると思う」

梓「そうかあ、時は流れる者ね」

「ところで秋、誰彼って何？」

秋「えっ！？ さっ、さあ！？ ググれ！」

梓「うん」

秋「やっぱググらないでええ！」



梓「ことわる！」

秋「いやああああ！」

誰たそがれ彼とは日本陸軍の兵士が主役のエロゲ  
である…

皆様方のご感想お待ちしております

### 3 他校と喧嘩【前編】

ある日だった

「ん？ あずにゃんあれ斉藤じゃない？」

「あ、ほんとだ、どうしたんだろ？」

何故か同じクラスの斉藤が道端に倒れていた

「おーい斉藤どうした？」

「うっ…やられた…」

「えっ？ 誰に？」

「他校の…奴らに…」

「これはひどい」

そしてー！…！

保健室

しょうがねーから佐藤を保健室につれてってやった

「あずにゃん、放課後なんも予定ないよね？」

「ないからついてきたんじゃん、なんでやられたか興味あるし」

「そうかい」

「っで佐藤、誰にやられたんだ？」

「ああ、アレはまぎれもなく極左学校で知られる「赤軍高校」の奴らだ」

「赤軍高校？」

「秋知らない？ 隣町の高校だよ」

「梓は知ってるの？」

「あつ そうか秋転校してきたばっかだもんね、赤軍校はいわゆるテロ集団よ」

「滅茶苦茶過激でその名前の通り軍隊のように教育されてしかもみんな共産主義者で日本が嫌いなものよ」

「しかも銃や爆弾も持っていて警察でも手におえないの」

「うわあああ」

…っで普通に考えてなにこれ

ドオン！！

ドゴオオオン！！

「きゃああああ！！！！」

「なっ なんだ！？」

「まさか…」

「あずにゃん…玄関のほうから聞こえたよ」

「行ってみよう」

そこにはソ連軍の軍服を着た若者がずらりと並んでいた

(うわー)

(こいつは…ソ連臭い軍服だ…)

「この学校には軍国主義の亡霊が潜んでいる！  
即座にそいつを殺さなくば日本帝国という共産主義の敵が復活する！」

(軍国主義の亡霊…まさか堀田軍曹？)

こいつらって素でこついうこと考えてるのか？ ブツW 頭大丈夫？)

「よし決めた！ 我々赤軍は貴様らに宣戦布告をする！」

(なぬううう…！！？)

「我々が勝てば堀田軍曹を引き渡しました慰安婦として女子全員を貰う！」

「そして我ら正義の肉の棒を挿入し我らの正義の考えを伝えるのだ」

(め…迷惑な話だああ…!!!)  
(男にもどりてえええ…!!…!!…!!…!!)

結局一週間後赤軍高校と二見高校は戦うことになった  
翌日・会議室

「どうします校長？」

「うーん、相手は学校単位で活動している、我々がやめると言ったところで

相手は応じないだろう」

「機動隊をよんだほうがよいのでは？」

「もちろんそれは考えているが…この戦い、生徒も機動隊もそして相手にも死者が

かならずでるだろう」

「でも私として生徒に危害を与えるようなことはしたくない」

「私も同意であります」

「なにか策を考えよう、期間はあと6日だ」

一方1年3組

「おい斉藤大丈夫か？」

「ああ、たいした怪我じゃないからな」

「どございよございよございよー!」

「どございたのあずにゃん?」

「慰安婦にされたらあの汚れたバベルの塔を建設されちゃうよ!」

「…そつちかい」

「だってそうでしょ!? もし負けたらみーんな処女失っちゃうでしょ!?!」

「それは確かに嫌だね」

「でもどございよう…赤軍高校は警察でも手におえない武器持ってるし…」

「でも…武器なくても戦略で勝てるよね」

「限度があるよあずにゃん、第一そんな戦略考えられそつな奴いるわけ…」

(いたああああ…)

「堀田さん!」

「ん? なんですか笹川さん?」

「貴方…軍人ですよね?」

「元陸軍特殊歩兵部隊ですが?」

「アンタしかいないっす！ 赤軍高校に打ち勝てるのは！」

「赤軍高校？ 例のアレか！！！」

なんかちかくにあったスピーカーで陸軍分列行進曲を流す堀田

「赤の不屈き者が！！ お国を愛する者として制裁を加えてやるわ！！！」

「あずにゃん、多分堀田軍曹ならなんとかしてくれるよ、多分」

「すごい気合だもんね」

そしてー！！ 一週間後！！

校庭のいたる所に塹壕が掘られた堀田の説得により男子生徒は全員戦闘に参加する  
事になった

一方女子は…

体育館

「よく女の子を危険にさらしてはならないっていつけど…」  
「確かに安全だね」

「もつずっとやってるから覚えちゃったね、秋それとって」

「いっよ」

銃刀法違反にはなりたくないのもデルガンを大量購入した  
でも内緒だよ？威力強化してあるなんて内緒だよ？

モデルガンは堀田の要望で日本軍が使用していたもののモデルガン  
がほとんどだ

ちなみにコンピューター研究会という組織が高校内になるのだが  
そのメンバーが堀田の指示の元殺傷能力のある兵器を開発したなん  
て内緒ね

あと堀田が持ち込んだ実物の十四年式拳銃と三八式歩兵銃があるの  
も内緒ね



### 3 他校と喧嘩【前編】（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

秋「あずにゃ〜ん！」

梓「なに秋？」

秋「コンピューター研究会ってなに？」

梓「う〜ん、パソコン愛好家の集まりかな？」

「規模はあまりおおきくないけどね」

秋「つで作中で兵器開発してたけど？」

梓「みんな頭いいからパソコンで設計できるのよ」

秋「そいつあすげーね！」

「ところでこんな感じ高校同士の戦争みたいなの  
昔あったよね」

梓「あるある、私達のお父さんの世代がそうかな？」

「50歳より上の人がだいたいだね」

「右と左の抗争なんて日常だったんだって」

秋「へえ」

「ところで私達全然出番ないよね」

梓「堀田さん人気だからね」

秋「人気投票なんてしたことないでしょ」

梓「いやいや小説内では、だって残留日本兵だよ？」

「いやあすごい発見だよね！」

秋「もういいわ」

皆様方のご感想お待ちしております

#### 4 他校と喧嘩【後編】

ひゅー

風が吹く

「堀田軍曹！ 偵察隊より！赤軍高校に動きが見られるようです！」

「うむ、全軍、最後の一兵まで抵抗すべし！」

すっかり上官気分の堀田、だって下士官だもんそりゃやりたくなるよ

「玉碎は許さない、3年でも5年でも戦うぞ！」

「ゴクッ……」

全員に緊張が走る

一方女子は -

「あずにゃん」

「なに？」

「私気が付いたんだよ、戦争で爆撃される所って兵器生産工場じゃない？」

「そ…そういえば…」

「結局私達の命も危なくね？」

「そうだね…」

「あばばばばばばもうだめだｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

「秋おちついて！…！！」

「堀田さんならなんとかしてくれよ！」

「ところでなかなか銃声が聞こえないね」

「なにしてるんだろ男子達？」

その頃外では -

「堀田軍曹、敵がきませんね」

「こちらは鉄壁だ侵入できないのだろう」

夕方 -

かぁー かぁー かぁー

ヒュウウウ…

「…」

「…」

「…」

「斉藤、こないな」

「ああ、徹也、お前見張りだろ？ 敵はいないのか？」

「いないわ」

夜 -

ヒュウウウウウ…

「腹減った」

「馬鹿者！ ただでさえ俺は戦場で塩と米しか食ってないってのに  
しかも末期はそれすらなかったんだぞ！ ガマンしろ！」

「はい！」

翌日 -

「堀田軍曹、…眠いですね」

「馬鹿者！ 一日ぐらいの徹夜は覚悟の上だ！」

「はい…」

「女子は寝てるのに…」

昼・

「おい斉藤、偵察にいけ」

「はい！」

夕方・

「堀田軍曹！」

「どうだ斉藤！？」

「既に陸上自衛隊に制圧されてました」

「…」

「なん…だって？」

・  
・  
・

「勝ったぞ！！俺ら勝ったぞ！！！！」

体育館・

「戦い…なかったね」

「よしよし…」

なでなで…

秋は寝てた、しかも梓のひざで

(やべ 足しびれてきたw)

こうして武装テロ集団「赤軍高校」との交戦もなくまた死者もでず騒動は終わった

続く

#### 4 他校と喧嘩【後編】（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

秋「ちょｗｗｗｗ前回のコンピ研なんの為の登場

だったの！？」

梓「その略称はある意味パクリだよね」

秋「関係ないでしょ、ってかなんで私があずにゃんの

おひざで寝てるだけなのよ！」

梓「別にいいじゃないの秋？」

「私の事…嫌い？」

秋「えっ？ そんなことないよ」

梓「よかった」

秋「しかし結局戦いなかったじゃん」

梓「よかったじゃんめんどくさいことにならなくて」

秋「ある意味そうだけど面白くなくね？」

梓「だって戦闘シーンたつてバババとかダダダしか

ないし…あゝ皇国の零に批評があまりなかった

のも奇跡だよ」

秋「うわあこの人がある意味最低だわ」

皆様方のご感想お待ちしております

## 5 少林拳の達人はレイプ魔!?

朝 -

「昨夜、女子高生に対し男が性的暴行を加える事件が発生しました」

(ふん)

「秋、気を付けるのよ」

「俺を狙う物好きな奴なんていねーよ」

「つてか姉ちゃんまでその名で呼ぶのかよ!」

「えっ? だってそういう設定だし」

「設定っておま…くそおんのババア!」

「ところで秋、一人称俺なの?」

「外じゃ怪しまれないように私って普通にいつて普通にいるけどな」

「つたくつい口がすべりそうになるんだよ、ああめんどくさい」

飯を食い終え学校へ行く

たっ たっ たっ たっ

ササッ

「!?!?」



「…」

「きのせいか…？今人の気配を感じたぞ」

そしてー！…

学校・

「あつ 秋おはよ」

「お、おうあずにゃんおはよ」

「秋ったら先週私の膝枕にして寝てたでしょ ふふ」

「あ、あれはつい眠くて！」

「うん、気持ちはわかるけどそり言いかただとわざとらしく聞こえるよ」

「本当に自分の意志ではやってないんだからね」

「はいはい」

「それより今日ニュース見た？」

「えっ？」

「ほらぁ 近所でこの高校の3年の女子がレイプされたって」

「ああ」

（あれ3年生だっけ？）

「秋気を付けるのよ」

「なんで?」

「秋って結構男子に人気だから」

「はい?」

「あれえ? 自覚なし? ホントだよ」

「きつとその犯罪者も秋の事睨んでるかもよ?」

「その時はその時だよ 敵はブツ倒せばいい」

「秋って男みたいなお事言うよね」

「えっ?」

(まずい、バレたら非常にマズイ)

「かつこいいかも」

「そ…そうっすか…」

そしてー!!!

下校 -

ササッ

「!?!」

「…」

「なんだ? 今人の気配が…」

「今朝も心配したよな…?」

(はっ!!!)

- - 回想中 - -

「秋って結構男子に人気だから」

「はい?」

「あれえ? 自覚なし? ホントだよ」

「きつとその犯罪者も秋の事睨んでるかもよ?」

- - 現実 - -

(まつ…まさか…)

(…まあ…来たらぶっ飛ばせばいい)

(一応俺は格闘技経験者だからな、心得はある)

(来るならきやがれレイプ魔! この俺が正義の鉄拳をくわえてやる!!!)

完全に妄想に浸ってた

でも格闘技は本当に経験していた、空手2級、まあたいしたことはないけど

シュタツ!!!

「!?!?!」

サア!!!

ブウン！

パシッ！！

「な…なんだお前！！！」

俺の前にいるのはやたらマッチョな全裸でマスクをつけている奴だ

「そうかお前が噂のレイプ魔だな！」

「私はほかの女と違ってそう簡単には倒されないぞ！」

ヒュウウウ シュタッ！

（あの動き…少林拳！？）

少林拳とは中国河南省嵩山にある、禅宗の祖庭である嵩山少林寺とその近郊で傳承され、  
修練されている中国武術及びそれを源流としている中国武術門派の  
総称である

シュタタタ…

（はっ 速い！）

「はいはいはいっ！！ アタア！」

秋はなんとか全部かわした

運がいいことに身体能力は男の時のまんまだった

(こいつ…達人だ！)

「よく今のをよけたな…だがこれで終わりだ！」

シユタア！

「ホアアア！！！」

ガシッ！

「しまっ！！！」

「つかまえた、やらせろ！！！」

「嫌アアアアア！！！」

(まずい！ 相手のほうが力がある！)

「へへへっ…！」

秋は胸を揉まれる

「やっ…やめる！」

「お前あんまり大きくないけど触り心地いいな」

「もっと揉んでやる…！」

「…！！！」

(畜生！！ こんな野郎に童貞奪われるなんてショック！)

(いやまで俺今女だろ？ やったぜこいつには奪われないぜ！)

(ああ`あ`あ`あ`でも処女奪われるうつつ…！！！！！！！！！！)

(どっちにしても屈辱だああ助けてくれえええ！！！！！)

「かわいい……」

上に手をつつこんできた

「こ…こんのやるお！…！！」

ギユ…

「いててててて！！！！ いてええ！！」

体を抑えつけられ後ろを向かされる…そしてブラのホックをとりはずしはじめた

(やめてくれえええええ！！！！)

今度は前を向かせ服を脱がそうとした

(ええい！ 脱がされてたまるか！)

バキィ！

右手があいていたのでパンチを出しそいつのマスクもとった

「あああつ！！！！」

「げっ！？」

「お前は！！！！ 溝口！！！！」

同じクラスの溝口、スキンヘッドが特徴で中学も同じだった  
もっとも中学時代俺は秋は男だったが

「秋…好き…」

「レイプ魔の正体はおめえか!!!!」

「そうだよ…お願い…やらせて…」

「この性欲魔人!!!!」

「おね…がい…好き…秋…」

はたして秋はこのまんま犯されてしまうのだろうか!?

続く!

## 5 少林拳の達人はレイプ魔！？（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

梓「さあいきなりピンチですね」

秋「ピンチすぎるわ！」

梓「はたしてこのまま秋は私に置かされる前に

犯されちゃうのでしょうか！？」

秋「梓：それどういうきこと？」

梓「さあね」

「そうそう、皆さんの中には少林拳と少林寺拳法が

同じ物と誤っている人もいます」

「実はまったくの別物で実は少林寺拳法は

日本発祥の武道なの」

秋「マジで？」

梓「1947年、満州から帰国した宗道臣という一人の

男によって創始された禅の精神修養と護身を旨

とする拳法で少林拳とは全く別の拳法よ」

「ちなみに宗教団体だったりもするよ」

秋「そうなのか…ってあんまり関係ないだろ…」

「それより私はあのまま惨めにやられるんですか」

梓「さあ？ 次回をお楽しみあれ」

皆様方のご感想お待ちしております。



## 6 がんばれ秋!

「や…やめろ…」

「かわいい…」

「好き…」

(なにも抵抗しないからいけないんだ……)

「へへへ…」

「隙あり!」

ドン!

俺は溝口の目を思いっきりつついてやった  
痛がつてる…痛がつてるぞ!

(効果あり!)

サッ…

俺は体勢を立て直し脱がされかけた服を着る

「うおおお…目があ!目があ!」

「うわあああ!」

「ふふ…武道家とするものは大事…目が使えないお前なら…私でも勝てる!」

「とりゃあ……！」

バキィ

「ぐわああ……！」

「なんちゃって！」

ドサツ

「げっ！」

「秋ちゃん……僕には……目が見えなくても……気配でわかるんだよ……秋ちゃん的位置が」

「ち……ち……」

(ちくしょおおお……！)

俺は……！犯されてしまうのか……？

やめろ！ 脱がすな！ まずい！ブラをとられる！

「へへへ……」

「ん？」

溝口の股間の肉は、たっていた

「と……」

(股間の東京タワーが……！ まずい……！)

その時、背中に違和感を……

(ホックが外された!!!)

そして…ブラをとろうとする  
必死の抵抗空しく…とられそうだ

(…!!!)

「へへへ、抵抗しても無駄だよ…」

(だ…誰か助けてえええ!!!)

さあ…

溝口の目には見えた、かわいらしい乳が

—

(。。。)ニ おっぱい!おっぱい!

ニ

(ぎゃあああ誰か殺してくれえええ!!!)

「小さくて…かわいい…」

(小さくて悪かったな!!!)

その時!

グサッ

「ぎゃあああ！！ ケツになんか刺さったああ！！」

「えっ？」

溝口が叫ぶ、証言によればケツになにかが刺さったらしい  
とりあえず俺は大急ぎでブラをつける

そして上を見ると…

「だ…だ…」

「誰だお前！！！！」

謎の人物、黒い装束…忍者？

「あとは私に任せたまえ！」

「いやアンタ誰だよ！」

「私は999の忍術を自由自在に操る300年以上万世一系の忍者  
！マイケル！」

「マイケルううう！！！！？？？？」

まてマイケルつておま！！ アメリカ人かよ！！  
お前の家本当に300年以上忍者なのか！！！！？

「では私の838番目の忍術をご披露しよう」

「なあんだと！？ 忍法とかよくわからんが！ 貴様みたいな怪し  
い奴なんざ

少林拳の敵じゃねえ!」

「行くぞ! 忍法! ヘルファイア!」

忍術まで英語かよ!

ブロロロ...

「ん? ヘリコプターの音?」

サアア

「な...なんじゃありゃあ!」

俺が目にしたものはヘリコプターだ、しかも見た目からして超重武装だ...そして...

ゴオオ!!!

ゴオオ!!!

「なんか発射したああ!!!」

ドゴオオ!!!

「ぎゃああああ!!!」

溝口はボロボロだった

ブロロロ...

「ハハハッ！ 見たか私の忍術！」

「今の忍術じゃねーだろ！どうみてもミサイルだろあれ！」

「ではさらばだ！」

シュタッ！

そして…ヘリコプターも去った…

「…なにこれ」

「しかし…あのエセ忍者…動きは確かだ…」

なにがなんだかわからなかったが、秋は忍者？のおかげでたすかりました

めでたしめでたし



## 7 / テスト！

さて、先日はひどい目にあっただが、来週はテストがある  
受験勉強のおかげですっかりなれたが…

しかし女って不便だ、立ちションはできないわ生理痛は痛いわ  
変態に襲われるわで、男に戻りたい…

畜生認知婆め…

…おっとまずい！ こんな事考えてたら犯罪犯しそうだぜ  
落ち着こう、ナムアマミダブツ…

高校 -

「おはようございます！」

野球部の部員が何故か俺に挨拶する  
こいつら朝早くから作業をしている  
なんせ以前の学校戦争未遂で学校中に塹壕が掘られたからな  
埋めるのが大変らしい

1 - 3 -

「おはよあずにゃん」



「あつ おはよ」

「大丈夫秋？」

「ま…まあね」

あんまり喋りたくない…変な男に助けられたなんて

「気をつけなさいよ、貴女小柄で弱そうでかわいく見えるんだから  
ひどくね？さりげなくあずにゃんの言う事ひどくね？

そして、いろいろあってテスト当日・

カカカ…

最初は世界史のテストだ  
しかしなんかおかしい

（なになに…ハルケ ニアに存在する主要国家をすべて書け…って  
おい…！！）

（ぜ の使い魔じゃねーか…！！）

さらに問題はひどい

（場違いな工芸品をすべて書け…知るか…！！）

とりあえず零戦とタイガー戦車とM72だけは書いといた  
だいたいこんな小説オタとかアニオタとかとミリオタじゃなけり  
や知らねーよ

結局世界史の問題の八割がゼ の使い魔だった

「どうだった秋？」

「世界史¥( ^ o ^ ) / オワタ なんぞ習ってない問題ばかりW  
W W」

「だよねえ！あれ絶対おかしいよね！」

よかった、あずにゃんもおかしいと思ってた  
続いて数学

9 4 5 7 3 6 2 6 + 2 9 4 8 5 7 1 7 × 3 3 8 8 2 8 ÷ 2 6 6 9 || ?

(ぎゃ…逆に難しいわ！)

数学はとりあえずできた

. . . .

こうしてテストが終了した

翌週！

「うーん、みんな世界史の点数が悪いね、ちゃんと勉強したんですか？」

ああしたよ…範囲表の所はな！

「まったく、ゼの使い魔ぐらい見とけよな」

おかしいだろ！なんか俺女になってから日本おかしいぞ！！

家・

「ただいま…って姉さんいるわけないか」

とりあえずテレビをつけると

「アメリカのオマ大統領が公園で全裸で騒いでいるのを近所の住民が発見

警察官がとりおさえるとオマ大統領は「裸だったら何が悪い」といったり

「シンゴー！シンゴー！」と叫んだりしていたので公然わいせつ罪で逮捕しました

「また、ドイツでは国家社会主義ドイツ労働者党が政権を獲得  
ハインリヒ・ヒトラーが総統になりました」

「一方ロシアではレーニンの遺体をナメナメしていたセルゲイさん  
(40)歳が逮捕されました」

世界的におかしい！！！！世界的にいろいろおかしすぎる！！！！

続く！



## 7 / テスト！（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

秋「なんかおかしくない？」

梓「なにが？」

秋「世界が」

梓「きのせいだよ」

秋「…そうですね…って！」

「そんなワケあるかぁ！！！！」

作者より、

主人公の名前がたまたま同じだったりで

盗作疑惑があるとコメントで指摘

（読んだら違ってたってことでお許しいただきましたが）

されました、もちろんハロデイは多く入ってますが

この作品は隣国とは違い完全盗作でもなんでも

ないのでご理解お願いします、

それと、勘違いさせてごめんなさいorz

本当にごめんなさいorz

ほかの方も問題がありましたらどうぞ申してください  
直ちに対処致します

8 7月ってなんかあったっけ？

プンプン…

「うるせえなあ…」

カチッ

時計を止め起き上がった

「ふああ…」

タッタッタツ…

部屋から出たら

姉がいた、この姉もなんかおかしいんだよな最近  
そもそも何故俺を女にしたんだ？  
もっと簡単な方法あったろ…

「おはよー」

朝っぱらから難しい事考えたくないし

「おはよ」

姉はとりうえずいつもどおり…



…でも本当に涼しそうだな…やっちゃんおうかな…

っは！？ 正気に戻れ俺！

とりあえずテレビでも見るか  
ニュースぐらいはやってるだろ

「今日、万引き事件がありました」

「犯人は老婆、穏やかな笑みを浮かべながら  
店を去りました」

「そして逃走しました」

「はあ、婆が万引きねえ」

「秋、布団干しとして」

「なんで俺？」

「いいでしょ、私全裸なんだから」

「はいはい・・・」

仕方なく布団を干すことにしたが…

ビューン！

「ワシャ！金はらったえ！」



「ト…トキさん？」

（はっ！？ まさか！？）

犯人に心あたりができた

金の支払い方も忘れたのかあの婆さん…

だいたい俺の件でもあの婆さんれっきとした犯罪者だよな…

でも警察もあんなめんどくさい人逮捕したからないだろうな…

キュラキュラキュラ…

「なんだ？」

「なにかしら？」

「お、おい姉さん！服き…あれ？」

「いつまでも全裸だと思ったの？ エロ少女」

「あ、元は男だったねしょうがない！」

「なにその言われよう…」

「どうでもいいけどこの音なに？」

…とそこに現れたのは…

「せ…戦車！？」

砲をこっちに向けてきた

「秋ちゃん！好きだからセツ スしてけれ！」

「み…溝口イイイ！」

「知り合い？」

「同級生だ…なんでも女体化中の俺に好意を抱いているらしい」

「よかったじゃん！」

「ちつともよかねえよ！」

どうでもいいけどあれ、戦車だよな？

自走砲でも装甲車でもないただの戦車だ

「おい！性欲魔人！それどこから！？」

「土手で拾った」

拾ったアア！？

なんで戦車が土手に！？

「いやあ、これ61式っていうんだけどさ、使ってないのか  
土手にあつてさあ」

それ自衛隊の基地の間違いだろ！

61だかなんだか知らんがお前も立派な犯罪者だ！

誰かこいつだけは逮捕してくれ！

「前回、忍者の忍術に敗れてから俺は反省した

どうすればあいつに攻撃されても大丈夫か」

「その結果装甲してある車両に乗ればいいじゃないかという結論に

達した」

「そう…戦車の中でハードセツ スできわる忍者に負けないわ!」  
「もう最高ね!」

だめだこいつ…頭おかしいわ

しかもこの前の忍者の忍術って…忍術って言えるの?

「さあ、やらせろ!」

「断る!」

「そつだ姉さん!あんな女の子になる機械持っているんだから  
超兵器ぐらいあるでしょ!?!」

「いや、ない」

「えっ?」

「だって、憲法違反で裁かれたくないし左翼に  
殺されたくないもん^ ^」

「いや…あんな変な機械も十分やばいと思うぞ…」

さてさて陸自の基地からこっそり古い戦車を奪った溝口を相手に  
秋達はどんな行動に出るか

8 / 7月ってなんかあったっけ？（後書き）

秋と梓の！ 意味なきあとがきちゃん！

秋「もう…コメントさえ出ないわ…」

梓「秋、がんばって」

秋「がんばれる自信がないよお…」

「だいたいおかしいよお、戦車出してくるなんて」

「作者ミリオタなの？それともただのネタ？」

梓「ハル ギ アに大量に兵器持ち込んで原作の

面影ほとんどなくしてしまったという失態

犯した作者だしね」

秋「まあ、がんばるよ、なにがなんでも元にもどるよ」

梓「元に？」

秋「いや、なんでもないっす」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2949h/>

---

俺は男だ！女だけど...

2010年10月10日14時47分発行